

夜半（よわ）の月影

松下 幹生

信濃の山道 単騎で駆ける
お館様へ つなぎの為に
月夜に白く 光る貫道
躑躅ヶ崎（つつじがさき）へ
10里の夜道を ひた走る
甲斐の武田の 赤備え（あかぞなえ）

獣の遠吠え 背中に聞いて
鉢金（はちがね）の尾を なびかせながら
馬上の若武者 不乱に走る
夜半の月影 付き従えての 夜道駆け
甲斐の武田の 忠義心

つなぎを果たし 暫しの憩い
崖の切っ先 見上げる月に
額の汗も 夜風に涼し
復路を思い 具足（ぐそく）を締めて 整（ととの）える
甲斐の武田の 赤備え